

博士前期課程（修士） / 実践看護学領域 / 成人看護学分野

科目コード：240003-1

がん看護学演習 I Oncology Nursing I

担当教員	牧野 智恵、紺家 千津子、松井 優子、若杉彩、村上 真由美、久保 博子				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords	薬物療法、症状マネジメント				
学習目的・目標	<p>学習目的： がん薬物療法と療養過程のマネジメントについて学び、Evidence based practice のために必要な知識を習得する。</p> <p>学習目標： 1. がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。 2. がん薬物療法中の患者へのEvidence based practice のために事例を通して、ケアとキュアの融合ができる。 3. がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。</p>				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
1-2	がん薬物療法と予防メカニズム			講義・討議	牧野
3-4	消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネジメント 大腸がん・胃がん・肺がん患者のEvidence based practiceのための事例分析 ①大腸がん・胃がん・肺がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する ②専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、多職種との協働のあり方について			講義・討議	久保・牧野
5-6	造血器腫瘍薬物療法（造血器幹細胞移植を含む）と療養過程のマネジメント ①白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する ②専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について			講義・討議	松井・牧野
7-8	乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネジメント ①乳がん・生殖器系がん；事例から現病歴、病理・画像診断、看護情報などからアセスメントし、必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する ②専門看護師の立場から治療の意志決定、化学療法中の支持療法、緩和ケアのチーム体制との協働のあり方について			講義・討議	村上・牧野
9-10	がん化学療法を受ける患者への粘膜および創の管理 ・薬物療法における粘膜障害の特徴およびそのケアについて			討議	紺家・牧野
10-13	化学療法を受けているがん患者の経済上の問題、および医療・福祉施策について			講義	若杉・牧野
14-15	がん化学療法を受ける患者へのマネジメント ①学生のこれまでの看護実践の中から、化学療法を受ける患者・家族への困難な事例について討議し、マネジメントについて理解を深める			討議	牧野
教科書					
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEP リソース」医学書院、2013年 ・西条長廣監修；EBM がん化学療法・分子標的治療法、中外医学社、2015年 ・小島美佐子・佐藤麗子監訳；がん看護 コアカリキュラム、医学書院、2008年 				
評価指標	各セッションの準備状況と学習への取り組み(40%)、事例分析時の発表・質疑応答内容(40%)、レポート(20%)によって評価する。				
関連科目	がん看護学演習 II				
教員から学生へのメッセージ	①事前に配布される事例あるいは講師からの事前課題については、Evidence based practice のためのステップに沿ってあらかじめ分析しておくこと。 ②自らのケア経験も交えて積極的にディスカッションしましょう。				